



Viva Brasil★

平成23年度 ブラジル通信
12月31日(土)～1月13日(金)
No. 18
発行者：宮本 朋子

Feliz Ano Novo! あけましておめでとうございます★

2012年がスタートしました。私は、以前通訳をしていただいた伊藤テレジーニャさんに誘われて Diamante (ダイヤモンドの町) というところでブラジル式のお正月を体験してきました。ブラジルでは白い服を着て新しい年を迎える習慣があるそうで、大晦日の夜になるとみんな白い服に着替えます。これは、平和を願ってのことだそうですが、願い事によっては違う色の服でも構わないようで、ピンクや赤は恋愛運、黄色は金運アップという意味もあるそうです。夜中の12時が近づくと至るところで花火が上がり始め、カウントダウン。年が明けると同時にシャンパンで乾杯し、みんなと抱き合っ



元日の朝は、文協の新年会に出席しました。お雑煮や刺身、赤飯などを食べた後、日本語学校の先生と一緒に書初めをしました。今まで新年会で書初めをしたことがなかったそうで、参加した人はみんな興味をもってくれ、自分の好きな言葉を一筆一筆ていねいに書いていました。一番人気の字は、やはり「愛」。その他「平和」「幸」「健康」などがありました。初めて筆を使った人もおり、習字の楽しさを味わうことができたと思います。年々新年会に参加する人が減っているということで、書初めのような文化体験を取り入れることで、参加者が増えていってほしいと思いました。



お雑煮
おいしかったです



日本語学校のカリキュラム作成

マリンガ連合会には、7つの日本語学校があります。しかし、それぞれの学校によって指導方法や授業形態が異なり、日本語会話力を高める難しさに直面しています。また、2年前から日本語能力試験の内容が、コミュニケーション能力を重視した内容に変わったこともあり、今回連合会で共通のカリキュラムを作ることになりました。そこで、言葉の定着を図るためのゲーム(会話)活動を考えるお手伝いをしました。カリキュラム完成への道のりはまだまだ長いですが、子どもたちが日本語会話を楽しみながら練習&実践できるような活動を考えていきたいです。



帰国児童生徒へのインタビュー

パラナヴァイ日本語学校に通う帰国児童生徒と面談しました。

マリアナ（12歳）とアナ ジュリア（11歳）の姉妹は、帰国して3年目になります。マリアナさんは、5歳で日本へ行き、10歳で帰国。その間、日本の学校で日本語を使い、日曜日にポルトガル語を勉強していました。そのため、帰国後は問題なく学校に適應できました。

一方、妹のアナ ジュリアさんは、4歳で日本へ行き、9歳で帰国。その間、ずっと日本語しか話さなかったため、言葉が全くわからず、年齢は3年生でしたが2年生に入ることになりました。考え方から立ち振る舞いまで全てが日本人のようだったため、友達関係もうまくいかず、とても苦労したそうです。面談中も、恥ずかしがって自分の意見が言えないくらいでした。社交的で元気なマリアナさんと、引っ込みじあんのアナ ジュリアさん。同じ姉妹でも、状況が全く違っていました。

また、いとこのホアン君（22歳）は、4歳の時に日本へ行き、今回の地震で仕事がなくなってしまったため、去年6月に帰国。保育園、小・中・高校（中退）と日本の学校に通っていたので、今も日本語しか話せません。しかし、前回の通信で紹介したダリオさんと同様、高校卒業資格を取りたいと、CEEBAに入るため、現在ポルトガル語と歴史の勉強をしています。言葉のわからないブラジルで、心機一転がんばっていきたくて強く語ってくれました。

最後に、9月に面談したエニエラ州立学校に通うカリナさん（通信2&3号で紹介）と再会することができました。私との面談後、学校側は約束通りポルトガル語の個別指導を行ってくれたそうです。今まで知らなかった文法を学ぶことができ、とてもよかったのですが、それも数回で終了。本人もなぜ終わったのか理由がわからなかったそうです。ただ3ヶ月ぶりに会ったカリナさんは少したくましくなっており、以前は母親に対して日本語で話しかけていたのですが、今はポルトガル語で会話をしていました。学校側に対する支援協力の難しさを感じながらも、大変な環境の中でがんばり抜いた彼女に会えて、とてもうれしかったです。



パラナヴァイ支援団体の活動について

支援団体のメンバーに会って、今後の活動について話し合いました。今回、帰国児童生徒との面談を通して強く感じたことは、自分と同じ境遇の仲間がいることを知らない人が多いということでした。そのため、日本語を忘れ始め、なかにはほとんど話せなくなっている人もいました。そこで、月に1回程度、帰国した子どもたちが集まれる茶話会のようなものがないか提案しました。日本語を話す機会を作り、同じ立場同士の仲間ができることで心のサポートにもなり、ゆくゆくはパラナヴァイの日系人会を引っ張っていく大きな力になると思ったからです。しかしながら、帰国児童生徒側からのコンタクトがない限り、支援団体から働きかけることは難しく、必要とされなければ動くことができないのが現状です。子どもたちにとって、今何が必要かを考えたとき、「同じ仲間」がいてくれることが大きな支えになると思います。同じ町に住んでいるので、知り合うきっかけづくりをしていけるよう、働きかけていきたいです。

また、新しいメンバーとして4名の方が協力してくださることになりました。若い人材も入ってくれたので、幅広い活動ができるようにしていきたいです。



ブラジルの顔 リオ&サンパウロ観光

コルコバードの丘のキリスト像



リオの町を見守っています

ブラジルといえば「リオ・デ・ジャネイロ」と「サンパウロ」。そこで、長距離バスを利用して、ブラジルの顔を訪問してきました。

Cidade Maravilhosa（素晴らしい街）という愛称をもつリオ・デ・ジャネイロは、サンパウロに次ぐブラジル第2の都市です。カーニバルやビーチリゾートで華やかな印象がありますが、一方で市立劇場や国立美術館などの歴史的建造物が集まるセントロ（旧市街）は、リオ市民が利用する商店が立ち並び、古い町並みはブラジルの歴史を感じることができました。



コパカバーナ海岸

人であふれ、まぶしいです



真逆



日曜日のセントロ

閑散としていて、少し怖いです



街にはゴミがあふれていました



リオのカーニバルの会場

ここを抜きます



国立美術館



カンテラリア教会



カテドラル・ストロベリーターナ

カラフルな絵が町を彩っています

また、ブラジル最大の近代都市サンパウロは、地下鉄と郊外鉄道（CPTM）が発達しており、サンパウロ市内を自由に移動することができます。切符は全線共通で料金も一律R\$ 2.9と利用しやすく、リベルダージ地区の東洋人街やモジ・ダス・クルーゼスなど日系人が多くいる場所に行くと、まるで日本にいるような感じを受けました。さらに、南へ足を伸ばし、サッカーチームで有名なサントスにも行ってきました。コーヒーの輸出港として発展した都市で、日本移民が初めてブラジルの土を踏んだ場所としても知られており、104年の歴史を肌で感じるすることができました。

同じブラジルでもそれぞれがもつ背景によって町の雰囲気異なり、もっともっとブラジルを知りたくなりました。観光用路面電車に乗って!



旧サントス駅駅舎

ここからブラジル内陸の各地へ



重いよ〜



旧コーヒー取引所



大阪橋

東洋人街の鳥居



ぶらっとブラジルク・イ・ス♪

ブラジルの町では、至るところでタクシーを見つけることができますが、実は、市によってタクシーの色が異なるのです。次の3つのタクシーは、サンパウロ、リオ・デ・ジャネイロ、クリチバのどれでしょう？

①



オレンジ色に黒の格子柄

②



白一色

③



黄色のボディに青のストライプ

答え

- ①クリチバ
- ②サンパウロ
- ③リオ・デ・ジャネイロ

（マリンガやパラナヴァイのタクシーは、特に統一はなく、普通の車にタクシーマークがついていました。）

